

NO!リニア

No. 24

2010年 6月18日

JR東海労働組合

リニア反対プロジェクト

シンポジウム・リニア中央新幹線は必要か？シリーズ④

水源枯渇、土壌汚染、重金属・ヒ素汚染… トンネル建設で進む環境破壊！

理学博士、伊那谷自然友の会・松島信幸氏

Cルートの場合、富士川から岐阜県境まで約200kmのうち8～9割がトンネルだとすれば、大量の廃土が発生します。赤石山地や伊那谷の盆地には多くの谷があります。中でも大鹿村は地滑り地帯に集落があります。廃土で谷を埋めて平地を造成してはなりません。

河川沿いの水田は、洪水時の悠水地で氾濫を回避するための仕組みです。この場所に廃土を盛り土地の嵩上げをすればよいと発想するかもしれないが、大きな間違いです。一気に増大する洪水時の水量を仕切られた河道内だけで流下させることは不可能です。

山は水瓶です。水瓶の底を切り裂くのがトンネルです。トンネルから大量の水が流れ出し、周辺の湧き水が涸れ、集落を潤す川も涸れてしまいます。トンネルは周辺の地下水を吸い出します。トンネルに流れ出す地下水の範囲は、トンネルの長さを直径とする円の範囲まで影響します。最近、各地のトンネルで水異変が発生しました。地下水異変に対する対策は確立されていません。

トンネルの掘削と廃土によって発生する水の汚染は、見えない形で長く人の生活や健康に影響します。トンネルから流出する地下水には、岩石中から溶出した重金属などが含まれる可能性があります。ヒ素汚染も心配されます。水、土壌、環境汚染の問題は重要です。

